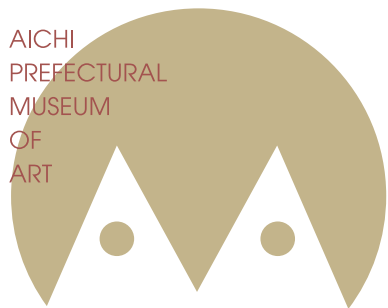


AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART



MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第29号

# 空中回廊

この企画展で遅しく、懐かしい時代を見よう【日本の自画像】  
／会員のひろば／愛知県美術館コレクションから  
【安井曾太郎《パンと肉》】／第三の都市／友の会活動紹介



この企画展で 逞しく、懐かしい時代を見よう

# 日本の自画像 写真が描く戦後 1945 - 1964

2009年11月6日(金) から 12月13日(日) まで開催

1945年8月15日、終戦の日の真夏の太陽の輝きを捕らえた濱谷浩の作品からこの展覧会は始まります。そして終戦直後のすさまじい時代の中で、何と逞しく人々は生きていたのでしょうか。

..... どこかに自分が.....

戦後を知っている世代は、この写真展のどこかに自分または知り合いを発見すると思うのです。木村伊兵衛、田沼武能、土門拳、東松照明等、なじみ深い写真家たちも力強く戦後の日本を受け止めています。闇市の行列、靴みがきの少年、焼跡の人々、と同時に戦争で無残に死んだ若者、それを思う親たち、深い悲しみの情景です。

原子爆弾にこだわったのは川田喜久治でした。原爆ドームの痕跡を何枚もの写真でリアルに表現しています。軍事的なプロパガンダに踊らされていた時代が終っても、心の奥底に刷り込まれた偽りの愛国心が疼き、その後遺症は簡単に癒されるものではありませんでした。敗戦によってアメリカに占領された日本のアイデンティティはどこかへ消失していったのです。銀座四丁目角のPX、進駐軍兵士と腕を組む女性、林忠彦たちの表現です。



街で 東京 1953年 石元泰博



紙芝居, 東京, 1953年 土門拳

..... 子どもたち、そして若者.....

1940年代の出版ブームは、戦中戦後の写真家たちを世に送り出しました。写真であらゆるものを表現し、写真で時代を語るをコンセプトにしたのが「岩波写真文庫」でした。写真家たちのリアリズムは、恐ろしいまでに戦後日本を捕えています。その中に表現された子供たちの目が実にみごとです。夢中になって紙芝居を見る子、浅草雷門でシンコ細工を見る子、三角ベースで下駄を脱いで野球をする少年、この展覧会のキャッチコピー「あの時、わたしは」と思い当る人もいることでしょう。

それからの猛烈なスピードの経済成長は、社会構造の破壊をもたらしました。閉山した炭坑

の人々の暮らしは、土門拳の 筑豊のこどもたち シリーズにリアルに表現されています。また日米安保条約反対のデモは、多くの写真家の眼で怒りと悲しみをもって表現されています。このデモは空前絶後の動員で、若者学生から、ムシロ旗を立てた農民も含めたものでした。国会議事堂前で殺された女子学生への献花の向うにいる警官のヘルメットの列を、長野重一は怒りの眼で表現しています。

..... 前衛的な表現も .....

右の作品は舞踏家土方巽のドキュメンタリー「鎌鼬（かまいたち）」を細江英公が撮影したもので、時代を表す緊張感が強く表現されています。そして最後は、同じく細江による三島由紀夫をモデルにした前衛的な写真 薔薇刑 で終わります。戦後という時代、政治経済あらゆる分野で劇的变化の起きた時代、この展覧会はその激動を体験した世代の貴重な証言なのです。

(宮崎玲子)



鎌鼬 作品8 .1965年 細江英公

次回展覧会

## 大ローマ展

2010年1月6日(水)～3月22日(月・振)

古代ローマ帝国の遺産 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ

古代ローマ帝国の一大展覧会です！ 壁画や彫刻はもちろんのこと、宝飾品、食器、硬貨、農器具、水道器具なども出品されますので、幅広い層に楽しんでいただける内容となっています。

展覧会の顔となるのは、初代皇帝アウグストゥスの巨大彫刻です。美しい白大理石製で、座像にして高さ2メートル15センチ、重さ約3トン、圧倒的な威厳と貫禄に満ちた大作です。そしてもう1体、ぜひともご覧いただきたい彫像があります。古代ギリシアのブロンズのアテナ像、《アレツォのミネルウァ》です。この作品は、今年のイタリア大統領来日に伴って特別に出品されることになったもので、そうでもなければ日本で展示されることはまずあり得ないレベルの逸品です。実に、ギリシアのオリジナルのブロンズ像が日本にやって来るのはこれが初めてのことです。

壁画も素晴らしい物が出品されます。ポンペイにあった「黄金の腕輪の家」という豪華な個人邸宅の一室を飾っていた7つの壁画が、元の配置のとおり組み上げられて展示されます。その高さは5メートルにもなり、大変壮観です。

まさに今年度の最後を飾るにふさわしい大ローマ展、年明けすぐからの開催ですので、どうぞお楽しみに！

(学芸員 大島徹也)



《皇帝座像（アウグストゥス）》後1世紀中頃  
ナポリ国立考古学博物館  
© Luciano Pedicini / Archivio dell'Arte

## 会員のひろば

# 友の会新会長挨拶 / 特別鑑賞会 ナイトカフェ / 友の会 部会活動紹介

◎ごあいさつ「新会長所信（ビッグファンオーレ）」 友の会会長 油田弘佑

愛知県美術館友の会は、美術に対する趣味と教養を深めると同時に県美をサポートしたいとの動機で加入した会員からなる独立した団体であり、これまでそれなりの実績をあげてきました。県美とは独立した団体ですが、連携を保ってきています。

最近の県美に対する県予算額の減少傾向に歯止めをかけ、併せて県美をして国内外への文化発信基地たらしめるには、会員ひとりひとりがビッグファン（米国オールスター戦でのオバマ大統領のイチローへの発言）、即ち決して安価でない会費をものともしない熱



烈な県美ファンになるとともに、ファンを増強させる必要があります。これにより、友の会の存在価値もいよいよ高まるというものであります。

私は新会長として、ファン増強に努めると同時に、会員の入会動機に応えるためにも、企画展の充実と会員に対する特典の充実を県美に要請するなど、魅力ある友の会づくりに励みます。

各会員におかれましても、美術の関心を持つ人々が一人でも多く入会してファンになっていただけるようご協力願います。

## 特別鑑賞会「放課後のほらっぱ展」

9月3日（木）に友の会特別鑑賞会があり、拝戸学芸員から、生き生きとした解説をしていただきました。拝戸学芸員は今までも杉戸洋氏、森北伸氏らと親交があり、奈良美智氏を加えて「大好きな檀田先生」のために展示会の準備をしている様子などを、写真や楽しいお話を交え



て紹介してくれました。

また閉館したあとの会場で、実際の作品を見ながら展示中の裏話なども聞かせていただくことができ、とても中身の濃い鑑賞会になりました。



た。友の会で企画展ごとに開催される特別鑑賞会は、個人で訪れる鑑賞とも一般向けのギャラリートークともまた違った形で楽しく鑑賞できるよい機会です。今後も多くの会員に参加して頂きたいと思いました。

(小林克敏)

## ナイトカフェ 今年は一夜限りオープン！

夏が来て、今年もナイトカフェへ行ってきました。会場は愛知県美術館と同じフロアのお洒落なウルフギャング・パルク。友の会へ入ってから毎年欠かさずナイトカフェに参加しています。今回は一夜限りの開催ということで少し残念に思いつつも、やっぱり演奏家の方たちのすぐ近くの席に座ることができ（友の会の会員でよかった！）大満足の時間を過ごせました。

オカリナ奏者・大沢さんの熱演、サプライズゲストたちとの競演もあり、大盛り上がり。

おいしいサラダとピザの香り、そして素敵な音楽！ここだけの話、こんなすばらしい催しは誰にも伝えたくないかも、なんて思いも実はあったりして（笑）。

来年もぜひ、ナイトカフェが開催されることを期待しています。



（大矢真美代）

## 友の会 部会活動紹介〔モニター部会〕

モニター部会の主な活動は、愛知県美術館で行われる企画展に対して以下の2点です。

第1は、ある程度美術館運営を理解した上で、継続的な視点から展示・内容に関して各自レポートをするモニター・シートの記入提出です。

第2は、美術館が一般入場者に対して行う企画展アンケートの集計です。これは次の企画展開始後にメンバーが友の会コーナーに集まって作業を行っています。このとき美術館の学芸員

さんから、企画展の運営や専門分野などのお話を聞かせていただくことにしています。

企画展ごとですので、2～3ヶ月に1度の活動です。メンバーは継続的に参加していただくために固定していますが、随時欠員補充をしていますので、参加を希望する会員は事務局に問い合わせてください。

（モニター部会担当理事 大野三郎）

# 愛知県美術館コレクションから 深く知ると、もっとみえてくる 新収蔵作品 安井曾太郎 《パンと肉》

(編)ここでご紹介する所蔵作品《パンと肉》を、本会報表紙に掲載しました。

当館のコレクションの中で安井曾太郎の作品を思い浮かべると、まず出てくるのは1912年頃に描かれたセザンヌ風の《婦人像》、または、円熟期の風景画《承德喇嘛廟》(1938年)の油彩画2点ではないでしょうか。これらのほかに、1905年から1907年までに描かれた最初期の木炭デッサンを20点所蔵しています。それら安井の作品群に、《パンと肉》が新に加わりました。

木製のテーブルの上には、フランスパンのバタール、白い丸皿からはみ出す厚切り肉、根のついた太いポロ葱3本、そして水の入ったグラスとナイフが置かれ、肉の皿と葱の下には白布が斜めにかけてられています。輪郭線を用いない柔らかな形態把握と穏やかな描写、黄や赤に温かみのある色彩によって描かれた画面からは、伸び伸びとしたおおらかさが感じられます。

京都市に生まれた安井は1904年16歳のときに、浅井忠が自宅に開いていた聖護院洋画研究所に入り、1906年には浅井を院長として新設された関西美術院に移ります。この時期、浅井と鹿子木孟郎から指導を受け、主に石膏像やモデルの木炭デッサンに励み、対象の量感を明暗によつて的確に捉えることを学び、基礎的なデッサン力を養っていきました。翌年、同じく関西美術院にいた津田青楓とともに渡仏し、アカデミー・ジュリアンでジャン=ポール・ローランスからおもに

人体素描を学びます。

この作品が描かれた1910年3月には、ジュリアンを辞め、安井は制作活動に入っており、この年または翌年の津田青楓宛書簡に「此の頃はピサロとミレーが頭の中を占領していて、それ以外のどの画を見ても気に入らないから困る」と記しています。この作品の田園的で素朴なモチーフ選びや、光に対する自然な取り組みからはミレーやピサロなどをよく理解し消化していることが見てとれます。また他方で、テーブルやパン、葱の折れた葉などの水平線と、左上方から右下方へと放射状に繰り返される形を組み合わせた構図からは、画面をさりげなく活気づけようとする安井の周到な配慮も窺われます。

この作品が描かれた頃は、ミレーやピサロの作風に傾倒していますが、その後セザンヌの収集家として知られたペルランのコレクションを実見し、セザンヌの影響を強く



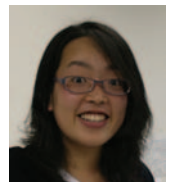
《婦人像》1912年頃

受けるようになります。1912年頃の《婦人像》からは、セザンヌの影響が顕著に伺えます。当館のこれまでのコレクションとあわせて見ることで、明治から昭和にかけての安井の制作の変化を感じとることができるでしょう。

(学芸員 近藤令子)

## 学芸員の横顔

近藤令子(こんどう・れいこ)  
愛知県美術館学芸員  
学生時代に実施してきたワークショップなどの経験を生かし、主に教育普及事業に携わる。トレードマークは、よく通る声と元気さ。2008年より現職に就く。



《承德喇嘛廟》1938年

愛知県美術館より

## 「第三の都市」 あいちトリエンナーレ開催にあたって



Hector Zamora 《飛行船の群れ》2009年 ヴェネツィアビエンナーレ

今準備が進められているあいちトリエンナーレ2010にはこれまでの展覧会にはない規模で海外の作家が登場する。その結果、私は頻繁に国外に出ることになった。2008年度の海外調査がわずかに1回だったのに対して、2009年度は9月時点ですでに3回。

しかし、アーティストを含めた海外で出会う美術関係者に、「アイチ」と「ナゴヤ」の都市名を伝えるが、知っている人がまったくいない。そこで「トウキョウとキョウトの中間にあります」、「自動車のトヨタがあります」、と説明することになる。トヨタと比べて、「アイチ」と「ナゴヤ」の知名度は圧倒的にない。美術関係者だけでなくタクシーの運転手や列車に同席したビジネスマンにも声をかけてみるが、結果は同じであった。

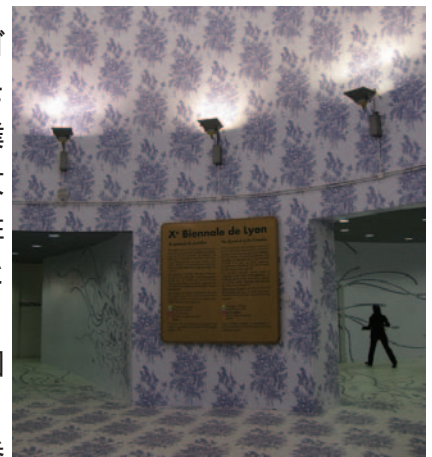
「第三番目」。ある国の都市をクイズのようにして三つ挙げる。意外に回答に困るのだ。アメリカなら、ニューヨーク、ロスアンゼルスときて、次はどこか。ボストン、それとも、シカゴか。イタリアなら、ローマ、ミラノと来て、フィレンツェか、それともヴェネツィアか。韓国の場合も同様。ソウルの次はプサンかそれともカンジュ（光州）か。日本はどうか。東京と京都ときて、三番目はどこか。大阪か、横浜か、あるいは名古屋か。広島か福岡か。不思議なことに、第三番目の多くの候補都市には芸術祭がある。イタリアのヴェネツィア、フランスのリヨン、英国のリヴァプール、中国の光州と南京、韓国にはプサンにも光州にも芸術祭がある。

当たり前のように聞こえるが、都市は主体的にコミュニケーションするのだ。正確には、都市名がトヨタの会社名のように流通して世界にコミュニケーションする。むしろ、その都市のイメージが流通していくと言い換えてもいいのかもしれない。その流通が止まれば、そのイメージも悲しいことに立ち消えてしまうのだ。

まだ、アイチやナゴヤは、国外に向けてそのコミュニケーションの能力が足りていないように思えてならない。これが海外を移動していて感じるものの一つである。芸術祭という方法は、世界中に先行例の多いコミュニケーションの一つであるし、まだ有効な方法でもある。国外にコミュニケーションするという点では、オリンピックや万国博覧会とほとんど変わらない。

ここで再び三番目クイズ。皆さんの頭の中でオリンピックと万国博覧会の開催都市が残っていますか。コンスタントに行われているホノルルマラソンのほうが記憶に残っているような感じがしませんか。

アイチやナゴヤにはトヨタを生み出した企業力もある。食文化もかなり個人的だ。もうひとつふんばりして、海外に向けて団子レースを繰り広げている三番



第10回リヨンビエンナーレエントランス(2009) 壁は中国人作家 Kinwah Tsang

目観光都市に、トリエンナーレが寄与できるというのだけれど。でも、大事なものは、いつ訪れてきても、何か面白いことがやっている、あるいは面白いものが見つかる、といった都市の魅力を高めることだと思う。ただ自分にとって住みやすいというだけではなくて。

(あいちトリエンナーレ2010キュレーター 拝戸雅彦)



AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART

# MEMBERSHIP

## 理事会から

### ■友の会新役員紹介

2009年5月23日の総会で新役員が決まりましたのでお知らせします。

#### <2009・2010年度新役員体制>

- [会長] 油田弘佑  
[副会長] 竹内清美  
[総務担当理事] 大野三郎 竹内清美  
[モニター担当理事] 大野三郎 塹江光子  
[所蔵作品管理サポート担当理事] 荻野孝 大野三郎  
[講座・講演担当理事] 長谷川幸実 塹江光子  
[イベント担当理事] 森健次 小林克敏  
[広報・会報担当理事] 平松章子 小林克敏 森健次  
[監事] 武藤和子 大石悦子  
[顧問] 太田幸一 宮崎玲子



新旧役員(総会后)

## 友の会活動紹介

- 「アヴァンギャルド・チャイナ展」  
4月 特別鑑賞会(昼・夜)  
4月 他館鑑賞会(名古屋ポストン美術館)  
5月 総会  
5月 特別講演会 あいちトリエンナーレ2010(建畠哲氏)  
「アーツ&クラフツ展」  
6月 特別鑑賞会(昼・夜)  
8月 ナイトカフェ  
「放課後のはらっぱ展」  
9月 特別鑑賞会(昼・夜)

- 定例活動  
美術館モニター のべ3回  
所蔵作品管理 のべ10回  
所蔵作品のホルダー・カード作成  
木村コレクションの風呂敷補修手入れ、  
書跡の文字確認作業  
白絹のクッション、ひもの製作、  
さらしの洗濯  
発送 のべ2回  
受付 のべ4回  
会報発行 第29号発行  
ホームページ 随時更新  
中面で紹介 裏面で紹介



### 特別講演会……………▶

「あいちトリエンナーレ2010」について、芸術監督である建畠哲氏よりその取り組みを紹介いただきました。イベントもスタートしていて、今後のトリエンナーレの活動にとっても興味を持つことができました。

◀…………… 他館鑑賞会  
名古屋ポストン美術館10周年記念「ゴーギャン展」へ。これまで殆どポストンから出されなかったゴーギャンの最高傑作を鑑賞しました。馬場駿吉館長からスライドを使って制作に至る軌跡、見所を丁寧にお話しいただきました。



◀…………… 特別鑑賞会  
「アーツ&クラフツ展」の鑑賞会は、生活に密着した展覧会だったせいか、昼の部でいつも以上に多くの方が参加されました。大島学芸員の熱の入った解説でみなさん真剣に作品に見入っていました。

## これからの企画展のご案内

日本の自画像 写真が描く戦後1945-1964

11月6日(金) 12月13日(日)

大ローマ展

古代ローマ帝国の遺産  
栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ

2010年1月6日(水) 3月22日(月・振)

## 友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

10階愛知県美術館受付

友の会事務局(火・木・金・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347

tomonokai@aac.pref.aichi.jp

### 編集後記

美術館の活動やそれを支える友の会の活動を様々に紹介する「空中回廊」。実は友の会が美術館の協力を得て発行しています。今年度から編集に携わり、制作の大変さを実感しました。今後も美術館の魅力や楽しみ方を紹介します。(小林克敏)

□編集 小林 克敏/水野 愛子/大矢 真美代/平松 章子  
中田 賢/松下 智子/宮崎 玲子/森 健次

□協力 愛知県美術館

□発行 2009年10月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2

愛知芸術文化センター内

TEL: 052-971-5511(代)内線347

FAX: 052-971-5617

E-mail: tomonokai@aac.pref.aichi.jp

美術館ウェブサイト: http://www-art.aac.pref.aichi.jp